

2020 西南神学生だより



新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申しあげます。今年度の西南学院大学神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。

2020 年度西南学院大学神学部学生会

大学院博士前期課程 1 年 安里 道直（あさと みちなお）

推薦教会：東風平バプテスト教会 研修教会：和白バプテスト教会



去年の重大ニュースは何かと聞かれたら、沖縄人の私は「首里城焼失」を真っ先に挙げるのが筋かもしれない。確かに沖縄の新聞社は「首里城焼失」をトップに挙げている。ちなみに全国的には「天皇代替わり」がトップニュースらしい（沖縄ではトップ 10 にも入ってないが）。しかし正直なところ私は、トップニュースに挙げるほど首里城焼失にショックを受けていない。

私は首里で生まれ育った。首里城公園はよく遊びに行った馴染みの場所である。私は首里が好きだし、沖縄を愛している。ただ私のアイデンティティーのよりもころは、地域やシンボルにあるわけではないらしい。

教会はどうだろうか。今まさに、教会のアイデンティティーを再確認するチャンスかもしれない。

大学院博士前期課程 1 年 奥村 献（おくむら ささぐ）

推薦教会：恵泉バプテスト教会 研修教会：福岡バプテスト教会

3 年目の学びが始まりました。大学院では具体的な教会の宣教課題について研究を進めたいと考えています。コロナウィルスの影響で、先行きが不透明な中で新年度が始まりました。礼拝はライブ配信となり、祈祷会に集う事はできません。礼拝や祈祷会、また教会自体の捉え直しが起こっています。これまで当たり前と思っていた事柄が当たり前でなくなる時、「共に」顔を合わせる事がいかに尊い奇跡の連続であったかということを考えさせられます。神学生として歩む中で与えられたこの出来事の意味を祈りつつ受け止めています。

「それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰まりの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」 IIコリント 12:10





大学院博士前期課程 1年 嶋田 健治（しまだ けんじ）
推薦教会：直方バプテストキリスト教会 研修教会：東八幡キリスト教会

V・E・フランクルの『それでも人生にイエスと言う』に、『私は人生にまだなにを期待できるか』と問うことはありません。いまではもう、「人生は私になにを期待しているか」と問うだけです。』という一文があります。現在、非日常の中にいる私が考察しなければならない事柄です。そして神学部も皆で工夫を凝らし挑戦する日々が続いている。現場はここにもあります。神学と聖書と現場とが密となり、人を生かす希望を見出す挑戦をせざるを得ません。聖書を開くと、現場で神学した先達たちの希望を読むことができます。彼らが置かれていた状況の神学を受け取り、「Stay home」状況の私に神が何を期待しているのか焦点を当てていきます。

神学部 3年 原田 仰（はらだ こう）
推薦教会：平尾バプテスト教会 研修教会：長住バプテスト教会



夜も朝もいつも神は、我らと共にいます。
3年生になり、いよいよ神学の学びが専門的になってきたという自覚と共に、自宅学習という異例のスタートを切りました。今年は長い時間をかけて準備したことが帳消しになっています。何も見通しが立っていません。不安もあります。すべてが真っ白になり、まるで「何かを考えることは無駄な行為である」と言われているようです。しかし、実際はそうではありません。今まで日常として、してきたことの課題が浮き彫りになっているとも思います。教会という場所に集まれない状況が続いているこの時だからこそ、神様が私たちに求めておられることに真摯に向き合い、用意されている神学の学びを深めたいと思います。



神学部 3年 吉田 睿溢（よしだ いえらむ）
推薦教会：博多キリスト教会 研修教会：博多キリスト教会

今年度神学部3年生になる吉田イエラムです。新しく新学期を迎える私たちの愛する神さまの召命の道がより確実かつ明白だと感じるようになりました。私は神学部に入ってこれで3年目になるのですが、年を重ねる度に思うことは、「祈り」というものがどれほど大切なものであるかということです。神学生として西南学院大学で勉強することはもちろん必要不可欠なのですが、同時に「祈り」も神学生にとって必要不可欠だと私は思います。私は将来牧師として神さまに用いられる事を期待していますが、知識だけで祈りがない状態で牧会に出ることは危険だということを、今イレギュラーな環境の中より強く感じます。共に祈りによって勝利した生活が送れますことを心から願います。

選科2年 林 守鎮（いむ すじん）

推薦教会：鳥飼バプテスト教会 研修教会：鳥飼バプテスト教会

「人間の心は自分の道を計画する。主が一步一步を備えてくださる。(箴言16:9)」選科2年の新学期は新型コロナウイルスのため恐れや不安に満ちあふれて始まりました。私が計画したいろんなことがだめになったり、学校や教会をはじめ全世界がパニックになりました。しかし、今こそ主が備えて下さった道は何だろうか。祈りながら与えられた2年目の神学の学びに取り組んでいきたいと思っています。神学の勉強はすればするほど難しくなりますが、環境や条件を超えて働いてくださる主を信頼しつつ、許された学びの機会に感謝を持って今年も頑張りたいと願います。



～卒業予定者～

大学院博士前期課程2年 興津 吉英（おきつ よしひで）

推薦教会：かたえキリスト教会 研修教会：かたえキリスト教会

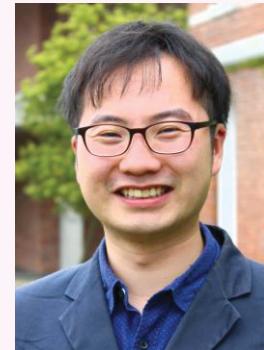


「終末論」の研究をめざしての、退職後の学びの2年目です。大学院から入学なのでたちまち最終学年です。昨年はひさしぶりに「学生」になったので、はりきっていろんな学科を受講し、どれもよき学びとなり感謝しています。しかし専攻の研究は遅々たるもので、修論にむけてこれから、という実態です。そういうシニアの学びですが、神学生として諸教会に責任がある学びであることも、1年をへて心に刻んでいます。

率直に言ってあまり注目されることのない「終末論」に心ひかれたのは、自分自身の信仰が個人の心のありかたに終始していたことへの反省によるものでした。同様のことを教会のありかたについても感じていました。現実の苦難や危機のなかで主の再臨を待ち望むという終末信仰にその打開を求めようと思いました。歴史の今の時点をどのようにとらえ、聖書と信仰の先人に学び指針を求める。大きすぎるだいそれた課題ですが、そのほんの端緒のひとつでもまとめることができれば幸いです。限られた時間と能力の中で努めたいと思います。

言うまでもなく今の感染症事態からはまさに終末論的です。多くの事を語りたい、しかし安易には語ることもまた戒めねばならない。この状況の中で祈りつつ聖書の語る終末のメッセージの意味を自分の言葉で語れるべく学びを続けます。

大学院博士前期課程 2 年 高橋 周也（たかはし ひろや）
推薦教会：花小金井キリスト教会 研修教会：バプテスト東福岡教会



過去 3 年間、「神学生だより」には、いわゆる 5000 人の給食の場面について書いてきた。入学前、自分の「献身」が問われた物語。この箇所の響き方は、ここでの生活でどんどん変わった。けれどどこか、神と自分についてというところに留まつたものになっていたかも。

時代は突如、「人々が一緒に集まって食事をするなんてとんでもない！」という事態に投げ込まれた。新しい時代には、少なくともこれまでとはパンの配り方を変えなくてはならないだろう。フィリポと同じく現実的な私…。アンデレとも同じ—「けれど、何の役にも立たないでしょう」…ああ、1 年目と同じ。私なんて何の役にも立たないと何度も言った。そう思いながら、でも、神様に呼ばれたと信じて出て来た私…。

イエスは言う。「永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」一問われているのは、本質なのだろう。求め学び続ける毎に、新しい喜びを感じる今日この頃。実は、学びが楽しくて仕方がない。それは、私の専門がいつも死を見つめているからだろう。そこにはいつも復活がある。希望を持って「イエス」と言い続けよう。そういう宣教者になろう。

皆様の祈りにつながれていることを心より感謝しつつ。今日の私の祈り。

大学院博士前期課程 2 年 西本 詩生（にしもと しなる）
推薦教会：恵泉バプテスト教会 研修教会：鳥栖キリスト教会



神学校生活の最後の年になりました。ここまで学びが守られてきたことを感謝いたします。

感染症の影響を受け、授業はビデオ通話で行われ、主日礼拝もネット配信を通して捧げています。工夫しながら繋がりを持っているものの、交わりに飢えていることに気づき、孤独すら感じる時があります。こういう時だからこそ、恵みとしての交わりに思いを寄せています。

考えてみれば、孤独感はどんな時も存在するものです。喜んで交わりに加わりたいという願いがあっても、交わりを遮る事情が生じるのです。それは健康や人間関係のこともあるでしょう。ですので、今までの繋がりの中で孤独を感じている人がいたとすれば、その交わりは完全なものではなかったのです。

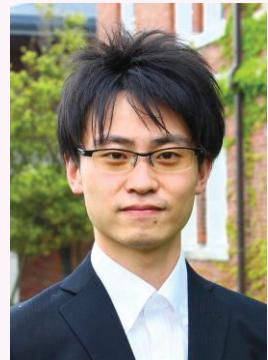
交わりを欲している今だからこそ、どんな交わりを求めているのかを考えさせられます。それは孤独感の根っこにある、あらゆる断絶を乗り越えていく交わりなのではないかと思います。ゼカリヤ 10 : 8 にこのようにあります「わたしは彼らを贖い口笛を吹いて集める」。全ての断絶を和合するキリストの贖いの業がある。しかも主なる神が、口笛を吹きながら本当の交わりに集めてくださる。この交わりを望みつつ歩んでいきたいと思います。

大学院博士前期課程 2年 原田 賢（はらだ けん）
推薦教会：大宮バプテスト教会 研修教会：久留米荒木キリスト教会

主の御名を賛美します。西南に入ってから5年目、そして西南での最後の一年を迎えることになりました。全国の皆さまから祈られて、支えられて、主の伴いの中を共に歩み続けられたこと、まずはこのことに感謝したいと思います。

2年目に入る頃からでしょうか、私は「教会とは何か」という問いに取り組み続けてきました。個々の信仰者と共同体としての教会の関係、教会がこの世界に或るようになされた意味、各教会間の関係、教派間の関係、他宗教との関係…。広がり続ける問いに翻弄されながら、しかし有意義な学びをし続けることが出来ました。聖書に注目し、または神学者たちの言葉に耳を傾け、そして牧師や西南の教授の方々、仲間である神学生たちとの対話を通じて。ある時は、他教派の方々やキリスト者ではない方々とも言葉を交わし合いました。すべてが貴重な学びです。この学びそのものが、様々な出来事に対する私自身の考え方・生き方を変革し続けています。

西南での最後の一年、修士論文でもやっぱり教会のことに取り組みます。この一年が終わった後もなお「学び続ける者」でありたいと願いつつ、この一年もまた主の伴われる道を皆さんと共に歩みたいです。



選科3年 千葉 仁志（ちば ひとし）
推薦教会：小倉春ヶ丘バプテスト教会 研修教会：富野バプテスト教会



いつも私たち神学生のために、ご支援とお祈りをありがとうございます。昨年の春は桜の木を見上げて、西南学院大学に入学した時の誇らしい気持ちを思い出しながら、また西南で学ぶことができる嬉しさを噛みしめておりました。しかし、今年はまさかの事態で、桜の下で感慨にふけることもなく、イレギュラーの新年度のスタートとなってしまいました。大学での対面授業ができなくなり、オンラインでの授業となりました。私は神学寮を離れ、北九州の自宅に籠っての学びとなり、大好きな西南のキャンパスを歩くこともできません。先生たちも私たちも、慣れないインターネットの授業に、初めは四苦八苦しておりました。卒業論文を抱えている身といたしましては、大学の図書館が使えないことが、大きな痛手です。期待か不安かといえば、不安要素の方がが多い現在の状況です。とはいっても大切な最終学年ですから、心を引き締めて丁寧に1年間を過ごしていきたいと考えております。神さまに与えられたこの学びの機会を、常に感謝することを忘れずに、初心にかえって一生懸命頑張ります。

夏期・春期神学生研修についてのお知らせ

全国の教会・伝道所の皆様、いつも祈り支えていただきありがとうございます。皆様には例年、神学生の長期休暇を利用して研修に招いてくださり、感謝いたします。

今年度も、皆様との繋がりの機会、研修の機会を閉ざしたくないと思い、神学生の夏期・春期研修についてのお知らせを掲載いたします。神学生の研修を希望される教会・伝道所は、以下の要領でご連絡ください。

ただし、神学生の減少やコロナウイルスの影響などにより、希望に応えられない場合があることをご了承ください。

【学生休暇期間】 夏季休暇 8/11(火)～9/12(土) 応募締切：7/12（日）

春季休暇 2/2(火)～3/31(水) 応募締切：1/10（日）

*休暇中においても集中講義や論文審査などがあり、
神学生のスケジュールの調整ができない場合があります。

【申込み先】 〒814-0015 福岡市早良区室見2-11-26

西南学院大学神学部寮気付 対外委員会 担当：原田 賢

E-Mail : swtaigai@yahoo.co.jp

【連絡事項】 ①教会名 ②担当者名 ③希望日程 ④研修内容

⑤交通費等の支援 ⑥連絡先(電話、メールアドレスなど)

～ 神学生の年間スケジュール ～

- 4月 始業礼拝
- 6月 神学校週間
- 7月 レポート・試験期間
- 8月 集中講義、夏期休暇
- 9月 夏期休暇、後期授業開始
- 11月 連盟総会
- 12月 クリスマス
- 1月 論文締切り、
レポート・試験期間
- 2月 春期休暇、論文審査
- 3月 卒業礼拝

*コロナウイルスの影響により、変動する可能性があります。

2020 西南神学生だより

発行日 2020年5月20日 編集 神学部学生会对外委員会
発行者 西南学院大学神学部学生会 E-Mail swtaigai@yahoo.co.jp